

行政視察報告書

会派行政視察

令和7年7月3日(木)

・鹿児島県鹿児島市

・桜島火山防災研究所（災害対策）について

視 察 先
及び
視察事項

1 調査報告

(1) 桜島の概況

桜島は周囲 55 km，面積 77 km²，高さ 1,117m，人口約 3,500 人。鹿児島市街地から 4 km，フェリーで 15 分の運行時間で到着する。

噴火の記録は奈良時代からで，大噴火は，西暦 764 年，1471 年，1779 年，1914 年，となっている。

1914 年の「大正噴火」では，溶岩流が海峡を埋め，桜島と半島が陸続きとなった。また，島内ではその際に火山灰で埋もれた鳥居が残されており，2m以上降灰のあったことが確認できる。

近年の昭和火口における爆発回数は，平成 21 年から 27 年までが多く，平成 23 年は 996 回を記録。平成 28 年からはやや減少し，令和 6 年は 46 回の爆発となっている。

(2) 噴火と避難

	噴火警戒レベルと防災対応	
	桜島の噴火警戒レベルは3で入山規制。	
	火口から半径 2 kmは立ち入り禁止。（法律に基づく措置）	
レベル	火山活動の状況	防災対応
5（避難）	共住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生，あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。
4（高齢者等避難）	居住地域に重大な影響を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難，住民の避難の準備等が必要。
3（入山規制）	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生，あるいは発生されると予測される。	住民は通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備等。登山禁止や入山規制等危険な地域への立ち入り規制等。
2（火口周辺規制）	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生，あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立ち入り規制等。
1（活火山であることに留意）	火山活動は静穏。火山活動の状態によって，火口内で火山灰の噴出等がみられる。（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ。）	状況に応じて火口内への立ち入り規制等。

桜島噴火警戒レベル3から 5 への引き上げは，直近では令和 4 年 7 月 24 日。当日は，一部地域に避難指示が発令された。3 日後の 27 日には警戒レベル 3 へ引き下げられ，避難指示は解除された。

(3) 桜島の大規模噴火に備えた対応の検討

大正噴火から 100 年以上経過した現在，始良カルデラ下のマグマ蓄積は，大正噴火が起こる前のレベルまでほぼ戻っていることが推定されており，次なる大規模噴火への備えが必要な時期に来ている。

過去のデータを基として，大正噴火級の降灰量をシミュレーションしている。こうしたデータを踏まえ，住民避難，軽石・火山灰除去，ライフライン，河川氾濫・土石流，保健福祉救急医療の対策検討を行う枠組みが構築されている。

桜島大規模噴火では降灰が広範囲に及ぶが、避難対象となる住民は 32 万人に及び、一斉非難は現実的ではない。そこで、避難対象範囲を 6 方位に分類し、偏西風による西からの風向きによって、南東、東、北東の区分で事前避難を行うことを想定している。

(4) 火山噴火により特に留意すべきこと

- ・ 鹿児島市街地側で想定すべき災害要因は多量の火山灰・軽石の降下、地震、海底噴火による津波、地盤沈下。
- ・ 風向きによっては鹿児島市街地にも多量の軽石降下（見込最大 1 億立方メートル）。
- ・ インフラ（交通、電力、通信、上下水道）の停止、機能不全。
- ・ 市街地における土石流・洪水などの土砂災害に警戒。
- ・ 市街地側においても多量の軽石降下からの避難が必要。
- ・ 都市機能の回復には早急な軽石・火山灰の除去。

(5) 軽石・火山灰を想定した啓開作業に必要な機材

実験の結果、火山灰、軽石が堆積した際、道路の復旧いわゆる啓開作業に必要な車両、重機は次のとおり。

- ・ 4 輪駆動車、中型ドーザー、ホイールローダー、バックホウ
- なお、後輪駆動車は全く役に立たない。

2 焼岳について

今回の視察において鹿児島市職員として対応いただいた、火山防災専門官の井口正人氏は理学博士であり、京都大学名誉教授の肩書を持つ。

井口氏は火山に精通しており、焼岳についても知見があり、興味深い話を聞くことができた。以下に要点を記す。

- (1) 桜島の大正噴火では、噴火が起こる前に火山性地震が起こっている。その後噴火し、8 時間後にマグニチュード 7.1 の地震が起きた。
- (2) 焼岳では 1998 年以降、群発地震が発生している。この山の周りに起きている地震には注意が必要。
- (3) 噴火の予測はできないが、地震が起きた、何もなかった。また地震が起きた、何もなかった。の繰り返しで噴火に向けて一步步進んでいく。但し、火山の周りの地震についてはどこまでが火山性かは不明である。
- (4) 焼岳は、今までの噴火の仕方や山頂部に溶岩ドームがつくられることなどから、雲仙普賢岳と似ていると考えられている。それぞれの火山の地下に眠るマグマのタイプが似ていることが原因。マグマには粘りけの強いものと弱いものがあり、焼岳、雲仙普賢岳ともに粘りけの強いマグマを持つ火山である。

- (5) 1991 年に雲仙普賢岳の噴火、火砕流が起きたが、その 70 年前に起こっていた島原半島の群発地震は噴火の前兆と考えられている。
- (6) 2014 年御岳山が噴火したが、焼岳のほうが危ないとみている。
- (7) 上高地は日本の火山の中で最大の観光地であるが、火山噴火の前兆があれば観光客を入れないことが何より重要。
- (8) 上高地への道は一つであり、これがふさがれたら万事休す。
- (9) 焼岳は想定火口が 1～2 km と長いので、警戒レベル 3 となったら観光客は入れないほうが良い。

3 所 感

桜島は市街地に近く噴火すればすぐに市街地に影響が出る。国を挙げて対策がとられており、①大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指す。②次世代に「つなぐ」火山防災教育。③「鹿児島モデル」による世界貢献を 3 本の柱とする「火山防災トップシティ」は名実ともに、という感想を持った。

一方で、焼岳に対する様々な知見に基づくご指導をいただいたが、我々としてはこれまで、火山防災について深く知る機会がなかったように思う。今回の研修を通じて、活火山を擁する本市として、これが上高地の観光と密接不可分であることを踏まえると、火山防災について理事者を含めて理解を深めていくこと、特に専門家を招聘しての研修が必要、との思いを強くした。

なお、研修を通じ今後想定される焼岳噴火に対し講じておくべき対策として、次の 3 点を指摘しておきたい。

- ① 噴火の前兆をとらえた場合、当該地域に居住する市民観光客を避難させるか。また、避難が噴火に間に合わなかった場合も如何に避難させるのか。（ヘリは使えないことも想定しておく必要がある。）
 - ② 安全な地域まで避難できず当該地域に残らざるを得ない場合、交通、電力、通信、上下水道の機能不全にいかに対応するのか。
 - ③ 道路がふさがれた場合早期に復旧するための、非常用車両、重機、オペレーターを如何に確保するのか。
- 危機管理として早期にシミュレーションしてやる必要がある。

以 上

令和 7 年 7 月 17 日

松本市議会議長 阿部功祐 様

松本市議会会派開明 芝山 稔

行政視察報告書

会派行政視察

令和7年7月3日(木)

視察先
及び
視察事項

・鹿児島県南九州市

・知覧特攻平和会館（平和行政）について

1 調査報告

鹿児島市役所を後にした私たちは、市電（路面電車）とバスを乗り継いで、南九州市に入り、次の視察先「知覧特攻平和会館」に向かいました。バスに1時間と少し揺られ、山あいを抜けながら向かった先に「知覧特攻平和会館」がありました。現地では、市職員で、同館の管理係長、塗木様がご対応くださいました。

【概要】

知覧特攻平和会館は、太平洋戦争末期の沖縄戦における特攻作戦で亡くなった陸軍特攻隊員の遺品や関係資料等を収集保存展示している、南九州市の直営施設です。沖縄戦の陸軍特攻隊員1,036名のうち半数近い439名が出撃した知覧飛行場の跡地に建ち、隊員の遺書や手紙を中心に、1万6,000点を超える資料を収蔵しています。昭和50年に建設された「特攻遺品館」が現在の場所に移転して、昭和62年2月に開館しました。元市職員等6名の語り部（館内案内人）による講話が特色で、昨年度（令和6年度）は、500校を超える児童生徒が修学旅行などで訪れ、入館者数は40万人を超えました。

【所感】

入館後、最初に講話室で塗木様から概要説明をいただきました。そのなかで最も印象に残った言葉は、「知覧特攻平和会館」の理念「永久に、正しく、ありのままに～風化させない、美化しない～」です。とりわけ「ありのままに」「美化しない」という言葉からは、歴史の事実としての「特攻」の実態を後世に正確に伝承しようとする、同館の強い意志と覚悟を感じました。その後、視聴覚室に移動して、語り部の方の講話を拝聴しました。特攻隊員や遺書の写真を映写しつつ、隊員一人ひとりの具体的なエピソード

が語り部の肉声を通して語られることで、「特攻」で失われたひとつひとつの尊い「いのち」に想いを馳せる時間となり、自らの「いのち」や昨今の「平和」についても考える機会となりました。隊員の平均年齢は21.6歳で、10代の隊員もあり、同じく10代半ばの知覧の高等女学校の生徒たちが隊員の身边を世話していた、という事実を知り、いまを生きる同世代がこの講話を通じてその事実と接したときの心境を推し量ると共に、これからもより多くの子ども・若者に、この講話を体験してもらえたら、と感じました。最後に、展示室を見学しました。遺書や手紙といった紙の資料を中心に、遺品や模型、映像、タッチパネルなども交え、まさに上述した館の理念「永久に、正しく、ありのままに ～ 風化させない、美化しない～」を体現する内容及び展示方法の展示室でした。膨大な点数の資料を前に、講話を聴いたあとだったのでなおのこと、ひとつひとつの遺書や手紙に正面から向き合いつつ、足を進めていきましたが、限られた時間のなかでは極一部の資料と向き合うことしか叶いませんでした。十分な時間を確保して、再訪したいところです。退館時、塗木様が、松本市が松本青年会議所と共催で実施する戦後80周年記念事業「松本と鹿児島をつなぐ 特攻から考える平和学習」について触れてくださり、10月に知覧を訪問する高校生から20代の若者を中心とした平和視察団のみなさんに、事前学習資料や映像資料があることを伝えてほしい、とお声かけいただきました（松本に戻り、総務部平和推進課に共有しました）。陸軍歩兵第50連隊が置かれ、沖縄戦直前の時期には、陸軍特攻部隊が浅間温泉に滞在し、陸軍松本飛行場で飛行訓練を行ったという記録も残っている松本市は、「特攻」とも関係が深い、かつて「軍都」だったまちです。その歴史の事実と正面から向き合い、知覧の平和学習の姿勢に学び、松本市でも「いのち」と「平和」の尊さを市民と共に考え、後世に伝え続けるための事業を、一層推進していくことが望ましいと考えます。この秋の戦後80周年記念事業における南九州市訪問が、その契機となることを期待します。

以 上

令和7年8月16日

松本市議会議長 阿部功祐 様

松本市議会会派開明 菊地 徹

行政視察報告書

会派「開明」行政視察

令和 7 年 7 月 2 日(水)～4 日 (金)

視 察 先 及び 視察事項	・ 令和 7 年 7 月 4 日 (金)	1 広島平和記念資料館 現地視察
	13 : 00～14 : 30	2 原爆ドーム 現地視察
	広島県広島市	

【広島市の概要】

広島県の県庁所在地で、中国・四国地方最多の人口を有する政令指定都市。世界史上初めて核兵器（原子爆弾）で攻撃された都市として、世界的に知名度が高い。16 世紀末、戦国武将・毛利輝元による太田川デルタの干拓と築城をきっかけに都市としての発展が始まり、江戸時代には藩主・浅野氏のもとで 42 万石の城下町に発展、第 2 次世界大戦以前は軍事都市であった。主要産業は自動車をはじめとする製造業、レモンなどの農産物や、牡蠣に代表される海産物も有名。

【広島平和記念資料館】

所在地 広島市中区中島町 1 番 2 号

(1) 資料館の歩み

昭和 20 年 8 月 6 日 米軍による原子爆弾投下を受けて、広島市は壊滅的な被害
 昭和 24 年 広島平和記念都市建設法可決、丹下健三らの共同作品を平和記念公園設計図に決定、広島市中央図書館に原爆参考資料陳列室を設置
 昭和 26 年 平和記念陳列館建設工事に着手
 昭和 30 年 平和記念資料館が開館
 昭和 50 年 大規模改修、展示内容を一新して開館
 平成 3 年 2 度目の大改修
 平成 6 年 平和記念館を改修し、平和記念資料館東館として開館
 平成 26 年 東館・本館のリニューアル工事に着手
 平成 29 年 東館リニューアルオープン
 平成 31 年 本館リニューアルオープン

(2) 入館者数

令和 4 年度 1,126,381 人（うち外国人 145,118 人）

令和 5 年度 1,981,782 人（うち外国人 670,757 人）

令和 6 年度 2,264,543 人（うち外国人 728,385 人）→過去最高。混沌とした国際情勢による平和や安全に対する危機感の高まり、円安を背景とした外国人旅行者の増加
昭和 30 年開館以来の総入館者数は 8,014 万 904 人（令和 6 年度末現在）

（3）展示内容

原爆被災に関する資料収集には、市民有志の団体である原爆資料集成後援会（現在の原爆資料保存会）をはじめ多くの市民の協力があつた。また、被爆の実相を後世に伝えるための貴重な資料として、被爆者やその遺族が保存している被爆資料の収集・保存に努めている。

常設展示は、導入展示（被爆前の広島、失われた人々の暮らし、広島平和記念資料館からのメッセージ）→8 月 6 日のヒロシマ（8 月 6 日の惨状、放射線による被害）→被爆者（魂の叫び、生きる）→平和記念公園の建設→核兵器の危険性（原子爆弾の開発と投下、原子爆弾の脅威、核の時代から核兵器廃絶へ向けて、大型情報検索装置）→広島への歩み（戦時下の広島と戦争、広島の復興、平和な世界をつくる）という流れ。

企画展として年毎に様々な展示が行われており、本年度は「ユネスコ『世界の記憶』登録候補 広島原爆の視覚的資料」を公開中である。

（4）その他

開館時間 3 月～ 7 月・ 9 月～11 月 7 時 30 分～19 時

8 月 7 時 30 分～20 時（ 5・ 6 日は 21 時まで）

12 月～ 2 月 7 時 30 分～18 時

休館日 12 月 30 日・ 31 日

入場料 個人 大人 200 円、65 歳以上は 100 円、高校生 100 円、中学生以下は無料

団体 大人 10 人以上は 160 円、高校生 20 人以上は無料

高校生 土曜日は無料、学校教育活動の見学は 20 人未満でも無料

原爆障害者章、身体障害者手帳等を提示した場合は無料

他にも、免除・減額の制度あり。

【原爆ドーム】

所在地 広島市中区大手町 1 丁目 10

相生橋の南側、元安川に面して立つ被爆建造物。米軍が投下した原子爆弾によって半壊し、壊れかけた外壁と鉄骨をむき出しにした無残な姿が、戦争のむごさを伝えている。ユネスコの世界遺産に登録されており、広島市への原子爆弾投下による惨状と、平

和を訴える記念碑として、負の世界遺産の一つとされている。

もともとは、大正4年に広島県の様々な物産を展示するため広島県物産陳列館として開館され、戦時中から原爆投下時までは広島県産業奨励館と呼ばれていた。設計はチェコ人の建築家ヤン・レッツェルで、設計料は4,575円。建物の一部に、当時まだ珍しかった鉄筋コンクリート造りを採用し、地上3階・地下1階建てであった。

【所感】

終戦から80年の節目の年。原爆投下から間もなく80周年を迎えようとしている夏7月に、広島市を視察した。近年の日本は春という季節を失ったらしく、初夏から酷暑の日々が続いている。戦後、見事に復興を果たし、整然と計画的に整備された政令指定都市・広島市で、水をたたえて流れる河川の美しい流れを眺めて思う。「暑い。あの日も暑かったに違いない。人々は冷たい水を求めて、この川に飛び込んだことだろう。」

広島市を訪れるのは3度目である。初回は昭和51年、かれこれ半世紀も前のこととなるが、勤め先の友人と中国地方を旅して、大規模改修がなされたばかりの平和記念資料館を見学した。へしゃげた弁当箱、血だらけの服、針の止まった柱時計……衝撃を受けた。以来、話題が出るたびに「広島市の平和記念資料館を、一度は見るべき」と言い続けてきた。8月15日を迎え、平和公園での祈念式典がテレビ中継されるたびに、胸が絞めつけられるような思いを抱いてきた。戦争など、絶対にしてはならない。原爆投下など、もってのほかである。

広島平和記念資料館は、半世紀を経て、広々と立派になっていた。修学旅行らしき生徒たちの乗ってきた大型バスが広場に何台も並び、館内は驚くほど多くの見学者でごった返している。昨年度の入館者数は過去最高とのことで、外国人の姿が目立つ。どちらの国の方々かは知りようもないが、どの人も真剣に見入っていて、眼差しは怖いほどに強い。平和や核兵器に対する思いが、私と同じであることを信じたいと願う。同時に、駆け足で見学せざるを得ない視察行程が残念でならない。

資料館の休館日は年末のみで、開館時間は朝7時半から夜6時ないしは7時、8時と長い。入館料も安価に抑えられていて、「1人でも多くの人に見てほしい」という姿勢が感じられる。ちなみに、広島平和記念資料館の入館者数は、我が国の美術館第1位である国立美術館（東京都）のそれに匹敵する。午前9時から夕方5時までの開館を貫いている松本市の博物館や美術館も、一考が必要ではないか。

令和7年7月17日

松本市議会議員 阿部 功 佑 様

会派「開明」 吉 村 幸 代